

2025 ぶら多摩散歩 105

テーマ：多摩丘陵



眺望と歴史

多摩よこやまの道を歩く

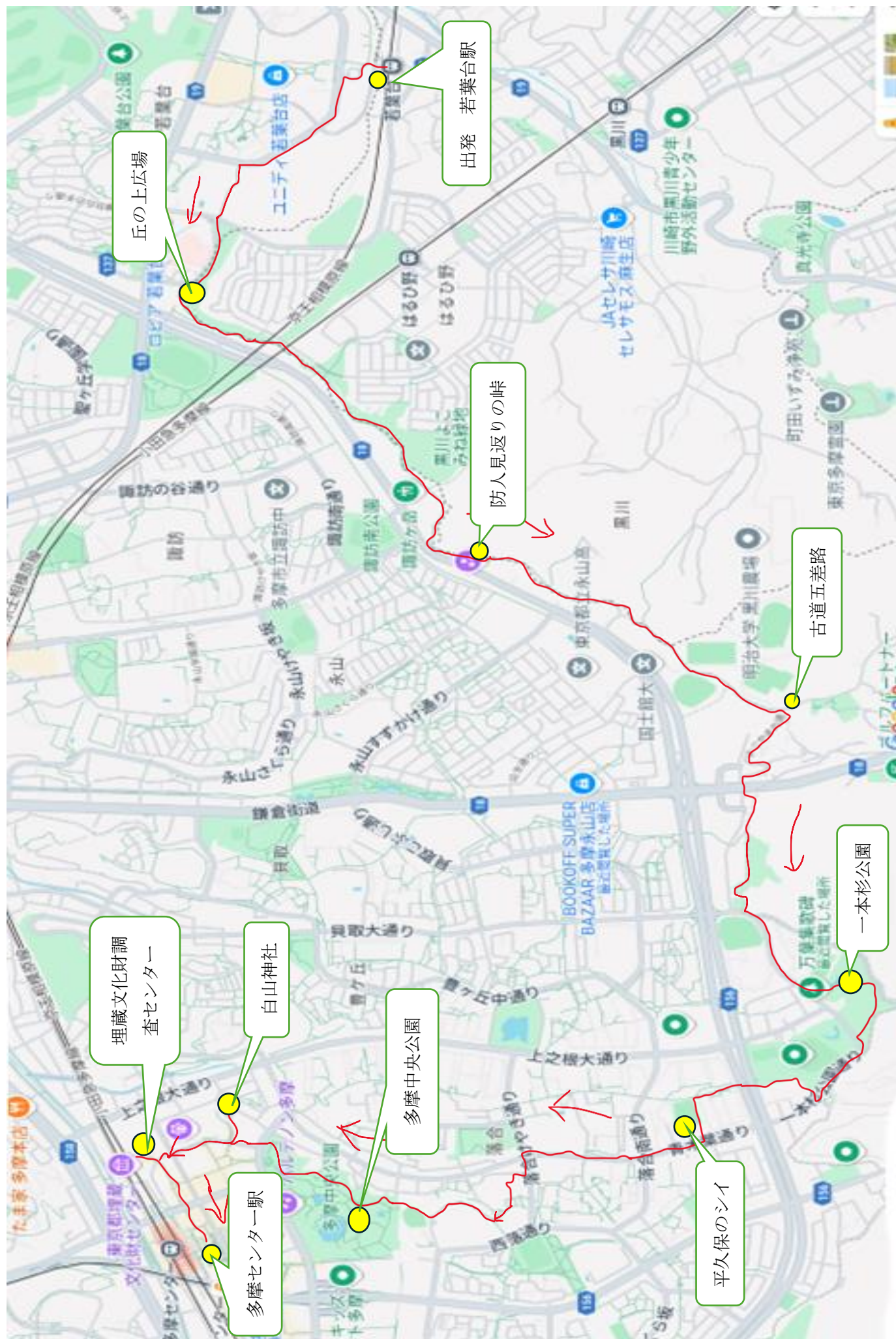
10月10日（金） 京王相模原線若葉台駅改札前 10:00 集合

コース： 京王相模原線若葉台駅⇒丘の上広場⇒瓜生黒川往還⇒防人見返りの峠⇒
古道五差路⇒一本杉公園（昼食）⇒平久保のシイ⇒多摩中央公園（旧富澤家住宅外）
⇒白山神社⇒埋蔵文化財調査センター⇒多摩センター駅（京王線、小田急多摩線、多
摩モノレール） 距離約 9 Km

昼食・・・一本杉公園（芝生外：弁当持参）

連絡先：tamaoaruku@gmail.com

参加申込期限：10月7日（火）



はじめに

「よこやまの道」は、万葉集において多摩の横山と詠われた多摩丘陵の尾根部に位置し、既存の山路や尾根沿いに残された自然や緑を活かしながら、樹林内の散策路や休憩広場、多摩市域を一望できる展望広場等が整備された全長約 10 k m の遊歩道です。



(現地案内板より)

今回のぶら多摩は、眺望と歴史等を楽しむため若葉台駅から一本杉公園を経由し、多摩センター駅までのルートを企画しました。

「よこやまの道」の位置する尾根筋は、古来より武蔵野と相模野の双方を眺められる高台として、また西国と東国を結ぶ様々な交通の要衝として活用されており、鎌倉古道（鎌倉街道早ノ道、鎌倉街道上ノ道）や奥州古道、奥州廃道、古代の東海道などの重要な歴史街道（古街道）が縦走、横断している痕跡がみられます。

また、古代から中世～江戸時代にわたって政治、軍事、文化、産業、寺社・霊地参詣などを目的として、東国一西国間の交易を行う商人や鎌倉武士団、諸国霊場を行脚する巡礼者や都の貴人、新選組が行き来したと推測されます。

(UR 都市機構 HP より抜粋)

「よこやまの道」命名の由来

現在「よこやまの道」が通っているのは、「都道南多摩尾根幹線」のすぐ南を走る多摩丘陵の尾根筋の上です。この尾根筋は古代の幹線道路が通っていたルートであり、多摩丘陵が万葉集で「多摩の横山」と呼ばれていたことから「よこやまの道」と名付けられました。

あかこま やまの はが と か し や
「赤駒を山野に放し捕りかにて 多摩の横山徒歩ゆか遣らむ」

(万葉集 20 巻 4417 宇遅部黒女)

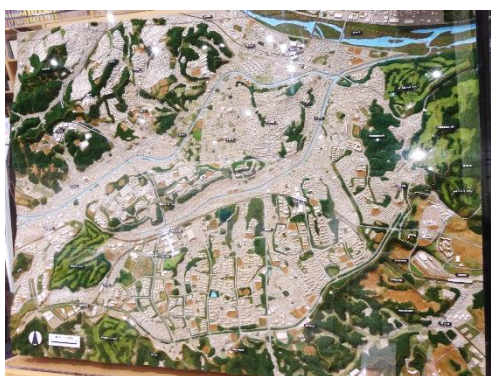
(ウィキペディアより)

多摩ニュータウン

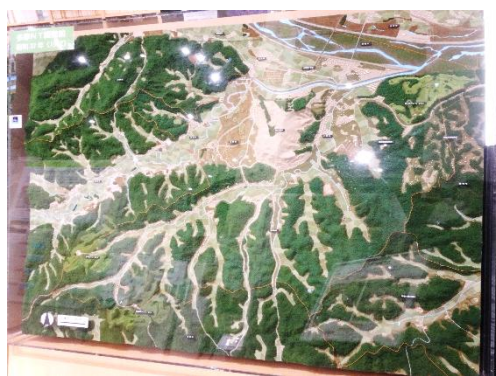
多摩ニュータウンは、東京都西南部の多摩丘陵に位置する、八王子、町田、多摩及び稲城の4市にわたる総面積約2,853ha、東西約14km、南北約2～3kmの地域です。

昭和46年（1971）から入居が始まり、多摩センター駅を中心として広域的な鉄道ネットワークが形成されるとともに、道路、公園などの都市基盤が高い水準で整備されました。

現在は、住宅を始めとして業務、商業、文化など多様な施設が立地し国内最大級のニュータウンとして人口約22万人（2019年現在）を擁する多摩地域における複合拠点となっています。（東京都都市整備局ホームページより）



（1999年）



（1962年）

南部の尾根筋に沿って「都道南多摩尾根幹線」が通っており、その南側の尾根筋に「よこやまの道」が整備されています。

（なお、1994年公開のスタジオジブリ製作による『平成狸合戦ぽんぽこ』は、開発が進む多摩ニュータウンを舞台に、その一帯の狸が「化学」（ばけがく）を駆使して抵抗を試みる様子を描いた物語です。）

都道 南多摩尾根幹線

1965年に立案された多摩ニュータウン計画を受けて1966年に都市計画で決定された多摩ニュータウンの南縁を東西に横断する形で調布市の多摩川原橋から町田市小山町の町田街道まで総延長約17kmの幹線道路。4車線、標準幅員43m（最大60m）。側道は開通していますが、本線工事は現在も継続中。



見どころ

◎丘の上広場

よこやまの道の東端の出発点。

多摩ニュータウンの街に網の目のように張り巡らされた全長約 41km に及ぶ遊歩道に掛かる橋の一つ「弓の橋」が見えます。



◎桜の広場

多摩丘陵の桜のあれこれ。

エドヒガンの大木があります。

◎雑木林の若返り（萌芽更新）と根株移植

多摩丘陵の雑木林はかつて薪や炭の材料や、肥料にする落葉の供給源でした。

雑木林を伐採した後、切り株から自然に伸びてくる枝を選抜しながら育て、10 数年で再び元に戻す技術が確立していました。（説明版あり）

◎諏訪ヶ岳

標高 144.3m の杭と三角点広くなっており休憩可能。



◎瓜生黒川往還

よこやまの道と交差する道で、現、川崎市麻生区から八王子市までを結び、江戸時代から昭和の初めまで、特産品の「黒川炭」や「禅寺丸柿」が運ばれていました。



◎古代往還と丸山城

ルートは確定されていませんが、この付近を古代東海道が通っていたと推定され、防人、朝廷の軍隊、官人たちが行き交ったと思われます。

また、この付近の斜面の高台は丸山城と呼ばれ、中世の通信基地としての物見や、狼煙台があったと考えられています。

（案内板あり）

◎防人見返りの峠

標高 145m、多摩丘陵の尾根の上にあります展望ポイントです。

左方向は神奈川の丹沢山系、晴れていればその向こうに富士山、中央方向は埼玉の秩父山系が望めます。

手前に広がるのは多摩ニュータウンですが、建設時に約 1,000 箇所の縄文時代の遺跡が発掘されました。



◎分倍河原の合戦前夜の野営地

1333 年（元弘 3）5 月 14 日、鎌倉幕府を滅亡に追い込んだ分倍河原の合戦の前夜、多摩川の北に陣取った新田義貞の大軍を迎え撃つために鎌倉を出発した北条奏家の 20 万の大軍勢は、ここの川崎市側に野営し、翌朝多摩川の大激戦に突入したと考えられています。

◎古道五差路

南北朝時代から鎌倉や小田原などへの近道として発達した古道が集まっています。（説明柱あり）

◎大軍勢が通った長い谷

現鎌倉街道が通るこの谷は、多摩市乞田の五差路から町田市野津田の丘まで南北 45 km に渡る自然の谷です。（案内板より）

◎一本杉公園

園内にテニスコートや野球場を完備。市指定有形文化財の旧有山家住宅、旧加藤家住宅もあります。

中世の鎌倉街道の一つで、関所を通る煩わしさを避けた道といわれる鎌倉裏街道（通称）と思われる道が通っています。

なお、公園内の一本杉球場では、昭和60年（1985年）江夏豊氏（阪神外）の引退試合が有志の呼びかけにより行われました。



◎平久保のシイ

樹齢推定 500～600 年の大小 2 株のスダジイ。都内でも有数の巨樹で都の天然記念物に指定されています。



◎青木葉天満宮

菅原道真の霊を祭っています。（案内板あり）

◎多摩中央公園

11 万㎡の広大な敷地に、大きな池と芝生の広場を有する開放感あふれる都市公園。

- ・旧富沢家住宅
- ・パルテノン多摩
- ・グリーンライブセンター



◎落合白山神社

創建の年代は詳らかではありませんが、御神体の木造神像七軀は平安時代（1180年）に遡る作とされています。元和4年（1618年）霜月10日と録された棟札によると、加賀・白山大権現の神霊を勧請したと記されています。祭神はイザナギ・イザナミの二神。（神社高札による）



・境内に「土公神」の碑

※土公神（どくじん・どころしん・どくしん）

陰陽道における神の一人。土をつかさどる。

春はかまど、夏は門、秋は井戸、冬は庭にいるとされ、遊行している季節ごとに土を動かす工事を行うと、土公神の怒りをかい、祟りがあるとされている。また、かまどの神ともされ、かまどに祭り、朝晩に燈明を捧げることとされる。不浄を嫌い、刃物をかまどに向けてはならないとされる。（ウィキペディアより）



◎庭園遺跡「縄文の村」

1987年（昭和62年）、多摩ニュータウンNo.57遺跡を保存する目的で整備されました。

◎都立埋蔵文化財調査センター

多摩ニュータウンの丘陵内に約1,000箇所の縄文時代の遺跡が点在しています。昭和41年（1966年）から40年かけて遺跡を発掘調査。遺跡から出土した縄文土器などが数多く展示されています。

